

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年2月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104373
法人名	社会福祉法人 恵会
事業所名	グループホーム はっぴー
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町9558番地27 (電話) 099-262-5505
自己評価作成日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①A棟・B棟自由に行き来でき、ご入居者様・職員と交流を持ち楽しんで生活できるようにしている。
- ②誕生会・季節の行事の際はA棟・B棟合同で行い楽しんで頂いている。
- ③2カ月に一回はっぴー便りを作成し居室やホーム内に貼り話題のひとつとしている。
- ④毎月ご家族様に連絡表を送付し各居室担当や看護師の立場からご入居者様の状況・状態をお伝えしている。
- ⑤花や野菜をご入居者様と育てて季節を感じて頂いたり収穫の喜びを感じて頂いている。
- ⑥ホーム周辺や駐車場の散歩等楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は敷地内に多くの福祉関連施設があり、玄関に噴霧器を設置し全身を消毒できる感染対策をしている。防災訓練など各施設が役割分担し協力体制を構築している。
- ・コロナ禍であるが、近隣小学校の依頼で法人職員による出前授業を行ったり、施設見学を受け入れるなど地域の一員として交流している。
- ・管理者や職員は明るく、暖かく、気さくで気持ちの良い対応で、要望や質問にも即対応する等、家族の安心感につながっている。
- ・毎朝理事長参加のもと、各事業所の責任者が集った朝礼があり、担当者が職場教養の冊子を朗読後、理事長の話がある。倫理の標語を学び、関わりの中でサービス向上に活かしている。
- ・管理者は責任感があり、利用者、家族の話に共感し対応している。職員も管理者に話しやすく何でも相談する等、利用者の一人ひとりの人生に寄り添い表情の変化に気づけるよう自己研鑽している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関口に掲示して意識して観るようになっている。理念を念頭に入れて言葉かけにも気をつけるようになっている。	理念は玄関口に掲示し、各職員は意識して理念を確認、共有して入居者に応じた声かけでケアの実践をしている。職員会議で理念の共通理解や振り返りを行い、実践に繋げている。	
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で法人全体の三大大行事及び外出の機会も減り、他者との交流も難しくなっている。	自治会に加入し、日々の散歩や地域の清掃活動などを通して挨拶交流している。近隣小学校から依頼が有り職員が出前授業を行ったり施設見学を受け入れたり、地域から電話での相談にも応じて地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方の見学や相談、問い合わせ等を受けている。認知症については日々ご入居者様の行動や言動を観察し、外部研修に参加し知識を高めながら地域の方に向けて生かしている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。コロナ禍で延期や出席者数を制限させて頂きながら、ご入居者様のご様子など直接顔を合わせお伝えしている。	2ヶ月毎に人数制限し、家族や地域包括支援センター職員の参加を得て開催している。入居者の近況・ホームの行事・活動報告・感染症対策・面会について報告し質問があれば取組状況を話し意見を支援に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5		<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>年々生活保護受給者の方が増えて以前より密に連携をとるようになった（書類提出や医療連携等）</p>	<p>市担当者とは窓口に出向いて書類提出時や電話で相談しアドバイスを受けている。生活保護担当者とは日頃から密に連携し年2回の訪問時は情報提供し共有する等、協力関係を築いている。市主催の研修はリモートで参加し職員に伝達している。</p>	
6		<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の研修を通し、職員一人一人が意識してケアを行い、拘束について疑問点などその都度話し合うようにしている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、マニュアルを基に毎月内部研修も実施している。危険行為がある場合はその都度職員で話し合い、抑制しないケアに取り組んでいる。転倒防止目的のセンサーは行動確認し位置を工夫し記録している。非常口はロックし玄関施錠はせず全員で見守り支援している。外に出ようとされる場合、職員と一緒に同行する支援をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を行い意識を持ってケアを行っている。不安な点は職員間で確認を行うようにして虐待防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見人を利用されている方がおられるが、制度について具体的な勉強会が行えていないので今後、職員の理解度を高めるよう勉強会を行ってきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様、ご入居者様が不安にならないよう説明は十分に時間をかけて行い、確認、納得して頂いている。改定時には都度説明し承諾を頂いている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に意見や要望を気軽に言える雰囲気作りを行い、玄関には意見箱を設置している。ふとした話からご家族様のお気持ちなど知ることができる。年1回のご家族様とご入居者様にアンケートを行っている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。年1回のアンケートも実施している。家族からは運営推進会議や面会時、電話等で状況を報告し意見を聞いている。毎月「グループホーム連絡表」で家族への連絡事項と看護師からの健康状態、写真添付して郵送報告し年1回のアンケートでも意見や要望が言える機会を設け、意見は反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議、朝の申し送り時など個人の意見や提案を気軽に言える雰囲気作りし反映している。	毎月のスタッフ会議や朝の申し送り・日々の関わりの中での意見や提案を聞いている。管理者は職員の思いや意見を運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の人事考課を実施、上司との面談を行い職員の意向や相談を受けながら仕事への取り組み等指導している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍で集団研修参加は控えているが、オンラインでの研修会の参加を勧め、個々のケアに対する意識向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており研修会、勉強会に参加している。はっぴー園グループ内の他事業所の職員を交えた会議で意見交換でコロナ禍による人員不足のケア協力で交流を深め、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>コロナ禍の為、入居前のホーム内の見学はできないが、外観の様子を見ていただき、説明を行っている。入居前、ご本人とご家族様を交えてお話を伺い、会話の中で想いを知り、職員間で共有し安心して生活できるよう信頼関係に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>担当ケアマネを含め、ご家族様と連絡をとり、ご家族様が困っているおこと、不安に思っていること、要望等を傾聴しご家族様が納得した上で、ご家族様が信頼できる環境づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様、ご家族様から話を聞き、要望されている支援を確認し、ホームで出来る支援をご説明している。出来る限りご本人様、ご家族様の以降に沿うように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご入居者様のADLに応じて洗濯物をたたみ、干し、段ボールの片づけ等、日常のお手伝いを職員と一っよに行い会話を大事にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご入居者様の体調や気持ちに変化がある時は随時、ご家族様に連絡、相談を行い対応している。毎月、連絡表を送付し、ご入居者様の様子を共有している。</p>		
20		<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ禍の為、外出、面会に制限があるが、事前に予約をしていただき面会の時間を楽しんでいる。</p>	<p>コロナ禍の為、玄関入口での面会で人数や時間制限があるが交流できることを大事に、写真や動画を送ったり、電話や手紙の取次を行う等、関係が途切れない支援に努めている。ホーム周辺の散歩や医療機関へのドライブ支援をしている。整容では毎月馴染みの訪問理美容で対応支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご入居者様の皆さまが顔なじみの関係になり、気軽に声をかけやすい環境づくりに努めている。食堂ホールでは、ご入居者様の関係性を把握した上で席を配置している。レクリエーション等では、一体感を持てるように職員が丸となって声かけ等の配慮に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>医療的措置のため、退居することになられても、次の受入れが決まるまで、医療機関、ご家族様と連携を図っている。また、受入れ先にも情報を提供している。敷地内にある特養等の各事業所とも情報共有を行い、連携に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話や行動の変化に気づき、職員間で共有しご本人様にお尋ねしながらケアを行っている。また、想いを伝えられないご入居者様には、簡単な質問や表情から察するようにしている。必ずご本人様へお尋ねし、ご家族様も含め話合っている。	暮らしの中で声かけし思いを確認したり、整髪後すっきりしている時に思いや意向を聞いている。困難な場合、表情の変化や行動の変化、簡単な質問の反応等を職員間で話し合い、家族の意見や生活歴を基に本人本位に検討しケアに関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に「わたしシート」を記入していただき、職員間で情報の共有を行っている。また日常会話を通し、新しい情報を得てケアにつなげていけるように努めている。ご家族様との写真、花等のポスターを飾っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の様子や変化等、職員間で共有し気にかけるようにしている。業務日誌に個人の一日の様子を記録し、気になる点、様子観察等申し送りをし、個々の状況を把握するように努めている。		
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のご入居者様に対しての気づき等、管理者や日勤リーダーに報告しミーティングや処遇会議等で意見を出しあっている。ご入居者様にとって、日常生活が安全に過ごしやすいようにアイデアを出し合い実践するようにしている。ご本人様、ご家族様、主治医、看護師の意見をふまえ、介護計画書・モニタリングに活かしている。	利用者や家族の意見や思い、主治医や看護師の意見、関わりの中での気づき等、ミーティングや担当者会議での意見を基に趣味や好きな物を活かした介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い担当者会議を6ヶ月毎に、変化があればその都度見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン、日誌を活用し日々の体調の変化や生活状況を入力することで情報の共有を行っている。介護する側の主観的な見解ではなくご入居者様のありのままの言葉や行動を記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院が長引くようであれば、その都度、ご家族様に相談し対応するように努めている。退院後、特養のショートを利用できる等説明を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、外部との接触はほとんどなかったが、訪問有料散髪を定期的に行い、ご入居者様の皆様が参加してホームの日常と違う雰囲気を楽しむことができている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様、ご家族様の希望される主治医となっている。必要に応じて他科の受診を行い必要時にご家族様にも送迎、付き添いをしていただいている。主治医にも情報提供を行い、情報共有を行っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医で支援し、協力医療機関から月2回の訪問診療と日々の健康管理は職員の看護師が行っている。歯科医の定期的な訪問診療や必要時は往診がある。整形外科の受診は看護師が同行するが他科受診は家族の協力を得ている。希望に応じて訪問マッサージの対応等、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日、朝、昼、夜間、バイタル測定を行い変化のあった場合は報告を行っている。その後、看護師より主治医へ報告し、指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、病状の情報収集を定期的に行っている。また退院に向けてご入居者様の身体状況に応じてホームでできる環境を整えられるよう対応している。</p>		
33		<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時ににご家族様へ説明を行い意向を確認している。看取りを希望された場合週末のあり方等ご家族様、主治医、介護職員で話し合い同意を得た上で受け入れている。意向が変わる事があるので、状況に応じてご家族様の気持ちを確認するようにしている。</p>	<p>入居時にマニュアルを基に説明し同意書を貰っている。重度化した場合、主治医から家族に説明を行い、職員も交え話し合い意思確認し方向性を共有し24時間連携体制で支援している。家族の希望で宿泊される場合はベッドや布団を準備し、居室への出入りも自由とし看取り支援をしている。看取り支援後のアンケート依頼し、結果を全員で共有し今後に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを目のつきう場所に置き、速やかに対応できるようにしている。</p>		
35		<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に敷地内にあるすべての事業所と消防署立ち合いのもと訓練を行っている。 反省点はマニュアルに活かし更新するようにしている。</p>	<p>法人で年2回防災訓練を消防署立会で各施設が役割を担って避難誘導訓練、通報訓練、消火訓練を実施している。避難経路や避難場所は目につく場所に掲示し、夜間想定の場合は交代での応援体制を構築している。備蓄は法人一括で管理し、水・ご飯・ラーメン等の食料品がある。給食課で在庫チェックし振り分けられている。自家発電機もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご入居者様のお一人お一人の過ごされてきた環境、個性に合わせて人格やプライバシーを損ねない声かけや対応を行っている。職員間では、ミーティングや申し送り等で確認している。</p>	<p>入職時に権利擁護、倫理や接遇に関することが記された「職員心得帳」を配布し、常に確認しながら支援している。ノックして入室、トイレ排泄や入浴は利用者の特性を把握しカーテンやドアは閉める等、羞恥心に配慮し声掛けの工夫や対応を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃より、ご入居者様の要望を汲めるようコミュニケーションをとり、可能な限り希望に沿うように努めている。また、自己決定できるよう声かけ等を工夫している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の都合を優先するのではなく、ご入居者様のペースに合わせてケアを行うよう、職員間でも確認し合いながら努めている。ご入居者様からの小さな気づきを大切に支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>毎日、朝、夕の普段着、寝間着へ更衣を行っている。更衣時には、おしゃれを楽しんでいただけるよう努めている。定期的に有料散髪も利用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しく楽しんでいただけるよう盛り付けに工夫したり、お一人お一人の食事形態に合わせて提供している。メニューや材料の話をして味わって召し上がっていただけるよう努めている。他事業所配置の管理栄養士にも協力を得て、栄養面も工夫して提供している。</p>	<p>食事は毎日冷凍で届き、湯煎式の調理法で盛り付けを工夫したり、食事形態も利用者の状態に応じて提供し、音楽を流し楽しみなものになるようにしている。ホームでご飯は準備している。メニューや栄養バランスも考慮し完食している。行事食、1と15の日は長寿食の赤飯、毎月の誕生会は好みの刺身やロールケーキでお祝いしおやつは手作りで楽しめるよう工夫し、お盆拭き等を一緒にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事、水分摂取量を記録に残し、バランスよく確保できるように努めている。摂取状態に合わせての食事形態や体調に合わせてゼリー、代替等内容を工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、ご入居者様の口腔ケア状態に合わせて行い、清潔に努めている。夕食後は義歯洗浄剤ぶ入れて管理している。また、歯科医と連携を図り、口腔ケア管理を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、お一人お一人の排泄状況に合わせて声かけ等を行い、出来る限りトイレ排泄が自立排泄で行えるように支援している。	尿意や便意は全員有る。トイレに行きたいと訴える利用者もいる。排泄チェック表で排泄状況を把握し利用者の特性に応じて声かけを工夫し、トイレ排泄支援している。排泄用品は個別で対応しリハビリパンツや布パンツで自立している人も多く見守り支援している。夜間ポータブルトイレ利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分量の調整や食物繊維の多いおやつや寒天ゼリー等を提供したり、オリゴ糖を使用する等の工夫をしながら看護師とも連携を図っている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご本人様のタイミングでの入浴は、体調、職員の状況により難しいことが多かった。	基本的に週2回、午前中の支援でシャワー浴や足浴支援もある。状況に応じて午後支援の時もある。個浴でお湯は個々に入れ替えている。湯温など希望に応じて対応している。入浴拒否がある場合、声掛けの工夫や無理強いはせず日にちをずらし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理で休みやすい環境づくりに努めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の理解に努めたが、ご入居者様によっては薬の変更もあり、理解していない場合もあった。申し送り等で理解に漏れないように努めた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様に合わせすぎてケアした場合に、レクリエーション等の支援の時間を設けることが難しこともあった。ある程度の時間軸を守り、楽しみごとの提供に努めるようにした。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が思うように出来なかった。ホームの周囲に季節の花を植え、短時間で散策出来るように努めた。	コロナ禍で外出支援が難しく天気の良い日は散歩しながら花壇の花の成長を楽しみ、日光浴や外気浴支援をしている。数日に分けてコスモスの花見ドライブ、家族の協力でドライブ支援している。ホーム内での行事で夏まつりで神輿を担いだりボンボン釣りやスイカ割り、綿菓子やかき氷などを準備し楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様自身での金銭管理は行っていない。外出が難しいため買い物はできていないが、訪問マッサージ等の健康管理で使用するなど支援に努めた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたいとの希望があれば、職員が付き添い、ご家族様への取り次ぎを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用した想い入れのあるのもや写真を飾り、落ち着く空間づくりに努めた。共有スペースは、電球を温かみのある暖色系に替え、季節を感じられるよう小物等で工夫した空間づくりに努めた。	ホールはエアコンで調整しながら、加湿器があり換気し、明るさも暖色系で過ごしやすい。壁には毎月季節の小物や壁画が飾られ、はり絵のコスモスや羽子板を掲示している。テーブルや椅子、テレビが有りテレビ体操で運動したり廊下の2段手すりでの運動、新聞読む等、利用者の思いに任せて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを置いて、ご入居者様が、いつでも好きな時に座って過ごせる時間ができるように工夫した。		
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様に応じてご本人様の馴染みの物を置いていただいたりご家族様の写真や花を飾ったりされている。装飾物を飾れないご入居者様の物は、ご家族様の了承を得て集いの間に掲示、保管して楽しんでいただいている。	居室は電動ベット・小タンス・エアコンが設置している。テレビやラジオ・時計・ぬいぐるみ等が持ち込まれ、自作のカレンダーや塗り絵・家族写真・花が飾られ居心地よく過ごせるようにしている。自由に濡れ縁に入りしコミュニケーションが図れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂内では車いすでも自由に動けるようにスペースを広くとり工夫している。個々の力を活かしながら、安全確認、見守りのもと、下肢筋力低下緩和の為廊下で散歩を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない